

# 教科書の中の文学に表現されるジェンダーバイアス —高等学校『英語II』の文学を読む

佐々木恵理

## 1 はじめに

フェミニズムの視点からの英語教科書調査において、主人公の性別比や、性差別語の使用頻度などの量的分析はその結果を表しやすい。また、内容の質的分析についても、性別役割分業の記述を指摘することは比較的容易である。しかしながら、文学作品(物語)の内容解釈は、ある教科書のある作品を取り上げるだけでは性差別イデオロギーが見えにくく、場合によっては背後にある原作の権威がちらついて、その差別性を示しにくい<sup>(1)</sup>。これを克服するためには、「教科書」という全体を俯瞰して、一作品だけでは見えにくい性差別イデオロギーを可視のものとすることが必要である。

本論は、1989年告示の『高等学校学習指導要領』に基づいた改訂教科書「英語II」の48種(49冊)を用いたフェミニスト批評である。教科書名は略称を用いるが、正式名称は「英語教科書の『政治的公正さ』とフェミニズム」の一覧表<sup>(2)</sup>を参照されたい。

## 2 教科書の中の文学作品とは何か

「文学作品とは何か」という問いに対して多くの答えがありうるのと同様に、教科書の中の文学作品についても、容易に定義づけをすることはできない。しかしながら、現在の教科書の現状から、教科書の中の文学作品の性質について概略を述べたいと思う。

まず、教科書の最終的な表現者は編集者であり、この意味において、教科書の中の作品は、原作から「再表現」されたもうひとつの作品である<sup>(3)</sup>ことを確認したい。作家は表現したいことを作品にし、教科書編集者は、語学そのものを、または語学教育を通じて、何か(人生でも、異文化でも、歴史、

恋愛、科学、何でもよいが)を学習させるために、原作を編み込みながら教科書用の作品を編纂する。従って、そこには教科書編集者の意図があり、これが教科書のもつイデオロギーとなる。言わば、教科書で学ぶ生徒は、意図的に編纂された教科書を原作として作品鑑賞をしていることになる。

また、特に英語教科書の中の作品は、外国語学習用ということもあり、原作のごく一部を切り取り、つなぎあわせ、平易な語彙・文章に変えて、書き直してあるものも少なくない。そのため、文学という意味では厚みに欠け、未熟な作品や奇妙な作品も多い。しかしながら、内容は短くまとめられ、かえって登場人物の性格描写には揺れがない。つまり初めから、ある明確な主題が与えられおり、「文学的解釈が分かれる」ほどの複雑さを有してはいない。

さらに、一般の文学作品とは違って、教科書の中の「テキスト」は開かれたものではない。全国の生徒が必ず何らかの教科書を使用するという、マスメディアの機能をもってさえ、教科書の中の「テキスト」は閉じた世界の作品である。また、一般の読者が任意に作家の作品を選ぶことができるのと異なり、生徒は半ば強制的に教科書の作品を読まされることになる。逆に言えば、用足りた後は、教科書の作品は二度とひも解かれることはないのである。

本稿は、教科書編集者が完成させた、教科書という「テキスト」を原作として、上記のような特異性をもつ文学を分析する作品論である。そのために、この論は一般に言うところの「文学批評」とは性質を異にすることになる。

次の章から、教科書の中の作品を便宜上、意図的に幾つかのジャンルに分け、フェミニスト批評を試みたいと思う。教科書の表現者(編集者)が無意識に教科書の中に取り込んでいるジェンダーバイアスと、そうした女性像や男性像が作られてゆく過程を明らかにし、性差別イデオロギーを分析することが本稿の目的である。

なお、英語の作品名に続く日本語訳のほとんどは筆者によるものであり、物語のあらすじについてはそれぞれ「註」で概観する。また、実際にどのような文学作品(物語、エッセイ、日記などを含む全ての読物)が教科書に描かれているかを示した「表1」も、合わせて参照されたい。

### 3 教科書の中の文学作品を分析する

#### (1) 「少女物語」・「少年物語」

異性愛が多数を占めることを考えれば、高校生を主人公にした異性との恋愛やデートに関する物語は、ごく自然なテーマであろう。子供と大人の過渡期にある主人公が、異性へのアンビバレントな感情を抱くという物語性は、女男を問わず、実際の高校生におよそ当てはまるに違いない。それにも関わらず、教科書で描かれる恋愛物語の主人公の多くは少女であり、少年の「揺れる思い」はあまり描かれることはない。

“The Date Catcher” (デートの相手を捕まえるもの) (*OCEAN, QUEST*)<sup>(4)</sup>では、主人公のジェネビーブの心は抑圧され、その行動は最後まで消極的に描かれ続ける。この課の初めの「前書き」には、「自分に自信を持って生きているとき、人は輝いて見えます。内気な少女ジェネビーブはどのようにして自信を持つようになり、すてきなボーイフレンドを得ることができたのでしょうか。」とあるが、彼女に付与された内気でおとなしくて恥ずかしがり屋の性格は、実は「かわいらしさ」を演出させる道具にすぎない。これは一般に、少年の内気でおとなしい様子が「純粋性」を象徴していることと根本的に異なっている点である。また、彼女の行動は常に母親の暗黙の制約を受けている。店に並ぶバレッタ(髪留め)を眺めているとき、「お母さんはこんな派手なバレッタなんて許してくれないだろう」と彼女は言う。ここには、華美になること(性的なアピール)から娘を遠ざけておこうとする母親の支配力が垣間見える。女の子は目立たぬようにしていなければならないのだ。さらにこの物語の設定は、女の子は男の子からの誘いを待つものだというジェンダー規範に縛られているために、彼女はいつそう控えめに描かれざるを得ないのである。

ジェネビーブは、正装用の青と金色のバレッタではなかったけれど、結局母親の意に反して、緑色のバレッタを買う。このバレッタは彼女にとっての「魔法」の髪飾りであり、それを自分と世界の間で介在させることで、母親からの支配を解き、パートとの新しい人間関係を作り出すことができるようになる。

こうした少女の物語は、一見すると本当の成長物語に見えるのだが、実はこれを成長物語として読ませる仕掛けが隠されている。つまり、あらかじめステレオタイプ化された少女像が準備されているので、あたかも少女が成長したかのように読み取れてしまうのである。行動力のある積極的な少女をここに配した場合には、こうした筋書きを少女の成長と結び付けるのには無理がある。結局、ここで彼女が成長して得たものは、単に「すてきなボーイフレンド」に過ぎない。

ジェネビーブに比べて、主体的で動的な「私」（エイミー）を主人公とする“Waiting for Prince Charming”（理想の恋人を待ちながら）（COSMOS）<sup>(4)</sup>にも、これと同様の仕掛けが見られる。彼女は最終的に、トムのさえない外見ではなく、知性に惹かれてゆく。

「外見はさえない少女だが知性がある。少年はそういう少女に惹かれた」という物語性は成立しにくい。だが、「少女」と「少年」をそれぞれ入換えてみると、突如として「男はつまるところ中身である」という説得力のある隠れていたプロットが出現する。少女では不自然だが少年では可能になるような、物語の二重基準があらかじめ文脈の中に滑り込んでいることが分かる。

そこで、期待していた少年像が一旦裏切られたうえで、エイミーが外見より重要な中身を偶然発見するという落差が作り出されることになる。彼女の心の変化は、この「落差」を利用して描かれているに過ぎない。つまり、自分の心を動かす何かを、外見ではなく「相手の内部」に発見したことと、外見で人を判断したことへのささやかな罪意識と反省をオーバーラップさせることによって、エイミーはデートを通して成長したと読ませることに成功しているのである。

少女の恋愛物語は、他者との関係性を学ぶ「かかわり」物語であると言える。少女というものは、自分自身の内面への問いかけによって、より深い自己を知るような自我形成の過程の中で描写されることがまずないのである。

一方、少年物語の主題は、少年が大人へと移行する過程に焦点が当てられていることを特徴とする。青春の悩みや、生きることの喜びと悲しみを描くだけではなく、並列的に戦争という重いテーマを配置することが多いことは

明記すべきであろう。W. サロイヤンの『人間喜劇』からの物語<sup>(6)</sup>では、第二次世界大戦を背景に、生と死、そして生きていることの意味や死んだ者への愛が、少年の悲しみと共に表現されている。

女性(母親)・子供と、父親・兄・夫という二極の世界が対峙する中で、少年は銃後のこちら側の世界と、戦場である向こう側の世界との中間に位置し、子供としての現在から自分の未来の姿を垣間見ることになる。残された母と子の「生の世界」と、男たちが命を奪われる(あくまでも少年の目には「奪われる命」しか映っていない)「死の世界」。少年はこの二つの世界の狭間で、生き抜いてゆくことの生々しい現実を知り、その意味を問いながら、戦争という悲惨な体験を通して成長するのである。戦争を背景にした少年の成長は、子供世界から男の大人世界への自覚の物語である。

さらに、“I Am David”(僕はデイヴィッド)(*PHOENIX, CROWN*)<sup>(7)</sup>でも、収容所から脱走した少年が体験するのは、単なる日常のありふれた経験ではない。少年がやり遂げなければならないのは、自分の命を賭けた極限の「ゲーム」である。物語の底流にあるのは、目的を成就する達成感とヒロイズムであり、少年が生き抜いてゆくことは人としての命の勝利と重なり合う。史実を背景にもつこの物語は、命の重みや生きてゆくことの本質的な意義を読み手に説かずにはいられないのである。

また、少年の友人として登場する犬という存在は、擬人化された「男」として、重要な役割を果たしている。少年と、少年のために命を犠牲にする犬との絆は、男同士の友情の象徴<sup>(8)</sup>である。さらに、この自己犠牲と友情の物語は、“Run, Melos!”(『走れメロス』)(*ENGLISH NOW*)への系譜へとつながってゆく。このような、命を賭けた男の友情と絆の物語は、少女物語には決して見られない特徴を有している。

英語学習用の教科書では、その制約から「大人の文学」は望めないために、物語はいきおい古典的な児童文学の要素を多分に含むことになる。そうであれば、「摩擦を起こさずジェンダーイデオロギー社会に溶け込む大人になる」とは、ジェンダーイデオロギーを容認する大人の男と女になるということで、そのためには、子どもたちに自分は子どもであることの他に、なにより自分

が男の子であり女の子であることを自覚させること。男の子とはどんなものなのか、女の子とはどんなものなのか、児童文学の中の男の子と女の子を通して情報を流すこと<sup>(9)</sup>という、ひこ・田中の指摘は、教科書の中の物語においても整合性をもつことが分かる。

また、教科書の物語では、少女は家庭や家族関係、異性との愛情を中心にした「内側の世界」で成長する「他者依存型」であり、一方少年は社会や世界との接触、同性との友情という「外側の世界」で成長する「自覚自立型」である。こうした成長の意味のギャップは、女子・男子の大人へのイニシエーションの描かれ方が根本的に異なること<sup>(10)</sup>から生じている。教科書の少女・少年物語は、ジェンダーの装置が埋め込まれた物語性を前提として、そのイニシエーションのあり方の違いを表現することで成立している準児童文学なのである。

## (2) 幽霊物語

幽霊物語はどれも、男性の主人公が女性の幽霊と出会うという共通した筋書きをもっている。男性はこの世に生きている人間の代表であり、女性は男性をあの世界へ導く役回りを演じている。

あの世界への案内役の幽霊を端的に描いているのが、“Welcome Aboard”（ようこそ空の旅へ）（*WHY*）<sup>(11)</sup>である。既に死亡している客室乗務員（stewardess）は、「私」を死の世界へと誘う「空の接客係」である。今まさに危機迫り、この世からあの世界へと移行する異次元空間を作り出しているのは、この幽霊に他ならない。

また“The Ghost and the Dreaming Lady”（幽霊と夢見る貴婦人）（*ACTIVE*）<sup>(12)</sup>では、イギリスの写真に懐かしさを覚えたり、デジャ・ヴを体験することは、最初妻を主人公とした出来事として読み手に伝えられる。それにもかかわらず、途中で妻の存在が曖昧になり、現実味を失うにつれて、物語の視点は突然夫へと転換されてしまう。読み手はこの視点の転換によって、実はこの物語の本当の主人公は夫であり、妻の体験は、不思議な体験をした夫を描くための前置きに過ぎなかったことに気づかされる。妻の役割は夫とあの世界を取

りもつことであり、その証拠に、夫はその後、特別な理由もないままに死んでしまう。ここでも女性は、男性を未知の世界へと導く他者であり、死への水先案内人なのである。

さて、死の世界は美や郷愁と結び付けられることもある。この設定では、主人公は直接命を脅かされないために、奇妙な体験は精神的な心の痛みとして美化されて、時に悲しい物語となる。

“Lavender” (ラベンダー) (*LIGHTHOUSE*)<sup>(13)</sup>では、主人公のひとりであるエリックは「彼女に漂う不思議さで、よりいっそう魅力的に見せて」いるラベンダーに心惹かれてゆくし、“The Lost Village” (消えた村) (*NEW STEP*)<sup>(14)</sup>の「私」は、メアリーを「とてもきれいだ」と一目ぼれし、再び今は滅びた村へと彼女に会いに行く。幻影としての女性の美しさは、女性が幽霊として肯定的に描かれるときの必須条件であり、男性の主人公が美しさ以外のものに惹かれることはまずあり得ない。もちろん、美しさだけで登場する女性の描かれ方は、一般の物語の中でも珍しくはない。だが、特に幽霊物語ではその非現実的な状況ゆえに、人間臭い個性的な性格描写を極力省くことも可能なために、美しい幽霊は女性が演じる格好の役柄となる。こうした女性の幽霊の描写には、男性にとってのロマンチックで幻想的な、女性の美しさのイメージを壊さないような配慮がなされていると言えるであろう。

これとは反対に、女性が恐怖の対象として描かれることもこの物語の特徴のひとつである。幽霊が男性に恐怖として映るのは、その女性が男性の手によって殺されたことと深く関わっている。“Harpist of the Gulf” (メキシコ湾のハープ奏者) (*ACTIVE*)<sup>(15)</sup>の場合、ジュリアの幽霊はホーズ船長の過去を暴く忌まわしい存在であり、彼女は遺恨や復讐心といった負のイメージを背負われている。実際は責任転嫁に過ぎないのに、身勝手な男性の意識は、現実の世界で生きていたときの女性の美しさを不快感へと反転させる回路を備えているらしい。そこで、「女性は死ぬと化けて出て、恨みを晴らそうとする」という構造を見事に作り出すに至る。これを実証するように、この物語ではジュリアの夫も殺されているが、彼は幽霊として再登場することはない。

幽霊は生身の人間とは見なされないもので、読み手の感情が、生きている男性の方へ向けられてしまうことはさほど不思議ではない。『四谷怪談』や『番町皿屋敷』では、受け手の恐怖は男性側の恐怖の疑似体験であり、殺されてしまった女性に感情移入することはまず期待されていない。つまりこの幽霊物語は、男性視点の女性観が端的に幽霊像に投影されている、極めて一方的な物語なのである。こうした女性像は明らかに、都合のよいときには男性の願望の集約として、またそうでなければ男性の実存を揺るがす嫌悪の対象としてステレオタイプ化されている。ここで問題なのは、女性像の固定化だけではなく、女性の具体的な性格付けが一切なされずに、幽霊という得体の知れない、美しいまたは恐ろしい「物」として描かれていることである。

『ハムレット』(W. シェイクスピア)では、父親の亡霊は息子の行動を導く重要な役目を負っているし、『クリスマス・カロール』(C. ディケンズ)でも、幽霊たちは皆、存在感をもった実体として描かれる。また「カンタベリーの幽霊」(O. ワイルド)でも、主役たる幽霊は人間以上に人間らしい。文学作品中の男性の幽霊は、幽霊ではあっても人格をもった「人」であることが多く、人並みの苦悩や悲喜、愛情と共に、その個性が主題と深く関わりながら描写されている。科学的に解明されていない幽霊や霊的世界を具体的に描くにはかなりの技術が要求される。そうであれば、幽霊からの視点を描かずに済み、また単なる現象として登場すればよいような幽霊は、主役にはなれない女性向きの配役なのであろう。女性は幽霊になってさえ、あくまで男性の物語に彩りを添える道具に過ぎないのである。

### (3) 説話とSF

教科書の中において、説話(伝説・神話・童話・寓話など)とSF(科学空想物語)というジャンルは、教訓的要素を含むという点で類似している。それは、時代を過去や未来という抽象の時間に置いたり、「たとえ」で物語を進めることで、人間が抱えるさまざまな問題を間接的に表現することができ、象徴を用いて、世界や事象の普遍性を伝えることができるからである。

その中でも、人間の存在や人としてのあり方、または人類の未来というテ

一コマで描かれるものは、男性のみを登場させるか、または現在のジェンダー役割が固定したままの世界として表現されている。女性を排斥した形で表現される「世界」は教科書の中でも健在である。

唯一女性を主役にしたたとえ話である“The Use of Lateral Thinking”（水平思考の使い方）（*SPECTRAM*）、および“Bella’s Wit”（ベラの知恵）（*DAILY*）<sup>(6)</sup>を見てみよう。「美しい10代(teenager)」の娘と結婚しようと企む金貸しは、「年を取った醜い男」である。ここで仮に、男が若くて素敵だったり、娘が30才を超えた並みの器量であった場合、現代の一般の基準から見ると、おそらく、男が借金と引き換えにしてまで娘と結婚しようとする理由が不明になるに違いない。

このように「たとえ」の象徴性を変質させると、ジェンダーからくる価値観、すなわちここでは、「男＝金持ち」、「女＝若くて美しい」という価値観が転倒する。そして読み手は、自分の意識に刷り込まれている予測可能の象徴性と、「たとえ」の象徴性とのずれを克服できなくなる。結果として、イメージの混乱が生じて、コンテキストが読めなくなってしまう訳である。こうした混乱を回避するために、たとえ話は極力社会の枠組みを利用して、「ありそうな話」として作り出されることになる。

さらに、読み手はこうした「ありそうな話」に対して、象徴されている意味を取り違えないように注意するあまり、たとえの中に潜む(性)差別的な象徴性を記号として受け入れるしかない。このたとえ話の場合、下書きにある「父親の借金のかたに身売りをする娘」のプロットそのものを疑うことは許されない。なぜならば、ここに人身売買の匂いをかぎつけたとしても、自己欺まんのうちその犯罪性を隠蔽してしまわなければ、読み手は、物語の結論に辿り着くことができなくなってしまうからである。

一般にたとえ話は、登場人物の役割にステレオタイプ化が見られれば見られるほど、物語の進行はスムーズに運ぶ仕組みになっている。そして皮肉にも、読み手が性役割の規範に疑いを抱かなければ、極端に凝縮された筋書きでも、苦痛を伴わずにコンテキストが「正しく」読み取られてゆくという相互作用がある。これは、たとえ話だけではなく、例えば、差別的な既存の作品

に上書きして創作するパロディでも同様である。つまり、読み手側に下書き(原作)に対する合意がない場合、パロディの意味をなさなくなる訳である。

元来、説話やSFは既成の概念やイメージの固着、すなわちステレオタイプが多く見られる。そうした固着から逃れるためには、物語の象徴の意味を根本から変革させるしかない。例えば、ジェームズ・F・ガーナーの『政治的に正しいおとぎ話』のシリーズ<sup>(77)</sup>に見られるあらゆる象徴性の解体や、U・ル・グインの『闇の左手』での両性具有人という人間の創造<sup>(78)</sup>は、物語の方向性をその前提から覆す力をもっている。当然ではあるが、説話やSFのジャンルこそ、まさに象徴性を「奇想天外」に作り出せる場ではないだろうか。

教科書は、残念ながら、説話やSFのこうした「意外性」を表現する場ではないようである。なぜならばこの「意外性」こそ、場合によっては、現実の価値観の嘘を洗い出しかねない脅威となり得るものだからであろう。社会から恩恵を受けている社会的強者、支配者であれば、「意外性」のない説話やSFの方が、より安全な読物であるに違いない。

#### 4 おわりに

教科書には、あからさまな性描写や、性犯罪そのものが描かれることがない<sup>(79)</sup>ので、性別役割分業にさえ目をつぶれば、個々の物語には性差別イデオロギーが含まれていないように思えるかもしれない。しかし、教科書に「表現された」作品全体を眺めると、性別によって二分される物語性があることが分かる。これは、ジェンダー規範に基づく性役割のステレオタイプ化や「性差」によって、異なる物語が文学作品として世に送り出されている証左である。

教科書には、あたかも様々なジャンル、時代、プロットから作品が選ばれているようには見えるが、俯瞰すれば、その文学的地図における女／男の物語性の分布には、かなりの偏向がある。本論では敢えて触れなかった作品である、少年から見た老人の姿(『老人と海』)や、アンとギルバートのやり取り(『赤毛のアン』)、ジョージとエミリーの恋愛(『わが町』)などが、この

地図のどこに位置するのかは自ずと明らかである。必然的に、フェミニズムの視点から見れば、これらが文学の教材としてふさわしい作品とは言えないことも判明するはずである。

もちろんこれには、例えば、『老人と海』は、男性の物語ではあるけれども描写が優れているとか、『赤毛のアン』は、女性が主人公で、その女性像は個性的であるといった異論が生じることも推察できる。だがこうした意見は、単なる原作擁護に過ぎず、次の点からの再反論が可能である。

英語教科書の中の作品は、原作とは似ても似つかぬ内容になることが多いことは、冒頭で述べた。繰り返すが、これは、作品の部分的切り取りや書き換えだけではなく、言葉の置き換えも行われるため、内容が陳腐になったり、場合によっては強引な結論になることもあるからである。極言すれば、教科書では、よくも悪くも原作の「味わい」が破壊されていることが多い<sup>(20)</sup>。これが、教科書の中の文学作品の姿である。

また、女性が主人公であれば、どのような作品（つまり、物語性）でも許容されるべきかという疑問がある。一般に女性を主人公にした物語は内容やテーマが「軽く」、男性の物語は「重い」印象がある。異なる作品を比較することは難しいとはいえ、何故女性の主人公ならば、『赤毛のアン』や『不思議の国のアリス』で、男性ならば、『老人と海』や『人間喜劇』なのか、という問題がここにある。これがまさにジェンダーによる物語性の差異である。

最終的には、多面的、また質的なふるいにかかけ、かつ量的なバランスを考慮した後でなければ、本当にその作品が教科書にふさわしいか否かの判断をすることはできない。だがそれ以前に、性差別語の使用も改善されず、男性の主人公が多数を占め、また物語性に性別による偏向がある作品が選択されている現状を見ると、上記に挙げた物語はどれも「教科書にはふさわしくない」と言う方が賢明であろう。

教科書編集者は、教科書をひとつの作品として作り上げてゆく「表現者」である。その意味において編集者の責任は重い。そして教科書の中の文学についてフェミニスト批評を行うことは、突き詰めれば、教科書編集者が意図する女性像と男性像、すなわち、「教育されるジェンダー」を明らかにするこ

とである。教科書の中でこのように性差別イデオロギーが表現されるということは、教科書というマス・メディアを用いて、そうしたイデオロギーを教育の名の下に正当化することでもある。

本稿の批評は『英語II』の、性別役割分業以外の特徴的な物語性に焦点を当てている。「テキスト」を変えれば、違った物語性のまとまりに対する批評が、また別の視点からも展開できるに違いない。それ程に、教科書の中の「テキスト」は、多種多様の文章と物語の集まり<sup>(2)</sup>である。このような「テキスト」を読み、それを文学批評として説得力あるものにしてゆくための道のりはこれから長いであろう。教科書の中の文学におけるフェミニスト批評は、始まったばかりなのである。

#### 註

- (1)教科書の中の作品における、原作(原作者)のもつ「権威」が端的に表れたのは、筒井康隆の作品「未来警察」の、てんかん患者に対する差別的 content についての一連の論考である。論考の全体は、塩見鮮一郎『作家と差別語』(明石書店、1993年)を、文学の権威については、佐々木恵理「教科書における文学とフェミニズム—表現は自由であるのか—」(現代日本語研究会、『ことば』18号、1997年、pp. 41-55)を参照のこと。
- (2)佐々木恵理、日本女性学会、『女性学』vol. 3、1995年、pp. 121-122。「英語II」は「英語I」の名称を踏襲している。
- (3)前掲、佐々木、1997年。
- (4)以下、物語が複数の教科書で採用されている場合や、また同じ物語でもその出典が異なる場合は、内容がより具体的な物語で代表させる。また、内容がほぼ同じ場合は、教科書を限定しないこととする。  
“The Date Catcher”(OCEAN):誰からもダンスパーティに誘われなかったジェネビーブは、デパートの「デートの相手を捕まえる」という売り場で、店員(saleslady)が薦める緑色のバレッタを買う。彼女は、立ち寄ったソーダの店で人気者のパートを見かけ、バレッタに魔法があればと思う。パートから誘い

を受けた彼女は、それがバレッタのお陰だと思うが、実は髪からバレッタが落ちていたことが分かり、全ては自分の力によるものだと気づいた。

- (5) “Waiting for Prince Charming”：私(エイミー)は友人の紹介でブラインド・デート(相手を知らされないお見合いデート)をしたが、現れたトムは素敵な男の子というにはほど遠かった。デートの間ずっと退屈だったが、彼が作家や詩人に詳しいことが分かり、話が弾む。私は、期待していなかった何かを見つけ、初めての恋の味は甘くほろ苦かった。
- (6) *The Human Comedy*(1943)からの物語は次の3つに分類される。電報局に勤めるホーマーが、サンドバルさんに夫の死を伝える電報を配達する話(“A Telegraph Message” *Lingua-Land*, “The Messenger” *OCEAN*)。ユリシーズ(ホーマーの弟)が母から聞く戦争や、生と死の話(“Ulysses” *UNICORN*)。電報局に勤めるホーマーが自分の兄の死を知る話(“Love Lives Forever” *NEW STEP*)。
- (7) “I Am David”：強制収容所を抜け出したデイヴィッドは、犬のキングと祖国オランダへ逃げる途中、ドイツ兵に行く手を阻まれる。茂みに隠れたが、もはや逃げられなかった。かつて犬が自分を救ってくれたので、デイヴィッドは自分が撃たれば犬が助かると思い、覚悟を決める。その時犬がドイツ兵の方へと躍り出て、彼は命からがら反対の方向へ走って逃げた。背後では、犬の撃たれる音がした。
- (8) *ACCESSO*の“Two Were Left”(残されたふたり)では、イヌイットの少年ノーニにとって、可愛がっている犬は初めは友人であるが、氷上に取り残されたことで、自らの生命保存のためには戦うべき敵と化す。物語の終わりには、さらに反転して、裏切ることのない友人として描かれる。
- (9) ひこ・田中、「自覚する物語たち」(日本児童文学協会、『日本児童文学』11、文溪堂、1995年11月号、pp. 28-29)。
- (10) これも、児童文学がもつ特徴と非常に似通っている。野村羊子「女の子のイニシエーションとなるものは？」(前掲、『日本児童文学』11、p. 44)。
- (11) “Welcome Aboard”：E山脈上空を飛行中の飛行機に私は乗っていた。アメをすすめてくれた客室乗務員は知り合いの妹に似ていたが、彼女は事故で亡くなっていたはずだった。言いよんでいるとその乗務員は、「私はあなたが考え

- ているように、死んでいるのです。本日はあの世航空へご搭乗下さいましてありがとうございます」と言った。突然飛行機は揺れ出し、山が近づいてきた。
- (12) “The Ghost and the Dreaming Lady” : 合衆国に住む平凡な夫婦 (man and his wife) の物語。妻は写真で見たイギリスの情景と、繰り返し見るある館の夢に不思議な感覚を覚えた。イギリス旅行をすることになり、何かに導かれるようにロンドンの郊外へと向かう。辿り着いた館は妻が夢で見たもので、彼女は「家に帰った」のだった。妻の姿は消え、夫はひとり帰国し、その後亡くなった。
- (13) “Lavender” : パーティに車で行く途中道に迷ったビルとエリックは、薄紫色の洋服を着た女性 (girl) に会う。ラベンダーと名乗る彼女もパーティに行くところだということで、3人で会場の大学へと向かった。帰りに彼女を送って行くが、エリックは自分のコートを貸していたことを思い出し、次の日、彼女が車を降りた辺りの家を訪ねた。その家の女性 (母親) によると、彼女は30年以上も前に亡くなっていた。
- (14) “The Lost Village” : イギリスの郊外をドライブしていた私は、車のガソリンをきらしてしまっただが、そこである女性 (girl) に会う。その村はどこか奇妙に感じられたが、彼女の家で食事をとった後、夜にガソリンを求めて一番近い町まで歩いた。スタンドの人によると、その村は300年以上前にクロムウエルによって焼かれた村で、10年に1日だけ命を吹き返すという。私は10年を待って、再びあの女性に会いに行き、そこにとどまろうと思った。
- (15) “Harpist of the Gulf” : ビネストとジュリア夫妻はウルグアイからニューオーリンズへと逃れるために船に乗った。ジュリアは25才年上の夫に飽きていて、残されたものはブラジルの金貨の入った箱だけだった。彼女は船長のホーズと恋に落ちたが、ホーズは金貨も欲しかったのでビネストを殺し、密告を恐れてジュリアも見殺しにした。その後安泰な生活を送っていたホーズだったが、殺人の噂が流れていることを知り、浜辺に埋めた金貨を掘り起こす。このとき、ハーブを奏でるジュリアが現れ、ホーズは息絶えた。
- (16) “The Use of Lateral Thinking” (*SPECTRAM*) : 金貸しの男は、父親の借金と引き換えにその娘にゲームを試みた。借金を帳消しにする代わりに、袋に入っ

た2個の小石のうち、黒い石を取れば娘は男の妻となり、白い石ならば娘は父親と暮らすことができる。男が2個の黒い石を入れたのを知り、娘は石を取り出すと同時に砂利道に落とし、袋に残った石の色で自分が取った石を判断させた。

(17) このシリーズでは、使用している言葉と共に、古典的な童話やおとぎばなしに登場する人間や動物の役割、背景・状況の設定などあらゆる固定観念やステレオタイプの解体を試みている。いわゆる、政治的公正さ (politically correctness) のフィルターを通した、現代の実験小説と言える。シリーズの原作は3冊あるが、本文で言及したものは、デーブ・スペクター他訳 (DHC、1995年)、Garner, James Finn, *Politically Correct Bedtime Stories* (Macmillan Publishing Company, NY, 1994) である。

(18) 後にル・グインは自ら誤りを認めて訂正するが、両性具有人を生み出した彼女でさえ、初めはその「ゲセン人」を男 (he) として表していた。

(19) あからさまではないにせよ、教科書には未遂の性犯罪の物語もある。“High Beams” (ハイ・ビーム) (*Genius, ENGLISH STREET*, 共に「英語 I」): 高校2年生のその少女は、その夜バスケットボールの試合を見た後、車を運転して帰るところだった。家までの道のりをずっと小型トラックに追跡され、何度も車のハイビームを浴びせられる。家に到着し、彼女が車から降りて逃げ帰ると、トラックの男も手に銃をもって降りてきた。警察がやってきたが、実は、別の男が彼女の車の後部座席に忍び込んでいて、ナイフで彼女を襲おうとしており、トラックの運転手は彼女をずっと守ってきたのだった。(Alvin Schwartz, from *Scary Stories to Tell in the Dark*)

このように、加害者が男で被害者が女というパターンはあまりにも「自然」なので、その中で描かれようとしている「実際」が見えにくい。ここでの「実際」とは、男が女を襲う目的とその意味そのものである。本論中の、「父親の借金のかたに身売りをする娘」のプロットも、この「実際」である。犯罪性の隠蔽については、佐々木恵理、「はびこる女性差別と『コクサイ人』のゆくえ」(日本女性学会、『女性学』vol. 2、1994年、p. 130)を、国語教科書の作品の「疑似強姦」物語については、前掲、佐々木、1997年を参照のこと。

- (20) 原作の「味わい」が破壊されるもうひとつの原因は、教科書の作品にあしらわれた挿絵である。同じ内容の物語でも、挿絵のモチーフやタッチの違いによって、随分作品の雰囲気が変わってくる。文章と挿し絵の全体を「教科書に表現された作品」として見れば、この挿絵があるからこそ、教科書の中の作品が「味わい」深くなっていると言えるかもしれない。
- (21) 現在の講読形式の教科書（「英語I」、「英語II」、「英語リーディング」）は、物語中心という訳ではない。課（いわゆるLessonで、中心的教材）では説明文が圧倒的に多く、速読（いわゆるRapid Readingで、副読教材）では物語が多いというのが一般的な傾向である。

#### 参考文献

- 安藤操『国語教科書批判』（三一書房、1980年）
- 伊東良徳他『教科書の中の男女差別』（明石書店、1991年）
- 上野千鶴子「家族の空想社会科学」『女という快楽』（勁草書房、1990年）
- 大平浩哉『世紀末国語教育論』（有朋堂、1995年）
- 『国語教科書攻撃と児童文学』（日本児童文学者協会編、青木書店、1981年）
- 『国語教科書攻撃と文学の授業』（同和教育における授業と教材研究協議会編、青木書店、1982年）
- 『小学校全教科書の分析 自立と共生の教育の視点から』（21世紀教育問題研究会、労働教育センター、1994年）
- 関口安義『文学教育の課題と創造』（教育出版、1980年）
- 『日本児童文学』5（日本児童文学協会、文溪堂、1992年5月号）
- 林尚男『文学教育における可能性の追求』（教育出版、1988年）
- フェッチャー、イーリング『だれが、いばら姫を起こしたのか』（丘沢静也訳、筑摩書房、1984年）(Iring Fetscher, *Wer hat Dornröschen wachgeküsst?—Das Märchen-Verwirrbuch*, Claassen, 1972)
- 向川幹雄『教科書と児童文学』（高文堂出版社、1995年）

(表1)「英語山」の文学作品一覽表

出版社 東書	教科書名 NEW HORIZON	題	物語の要約	原作(出典)と原作者
中教	Go English! AURORA	* A Pleasant Encounter Superstition	雨宿りをして、好きな人に偶然遭ったキヤスリーン 祖母の人生を思い出し、結婚するのをやめたクレア	The Lonely Girl (Edna O'Brien) Superstitions (Kate Morley)
		* I Became Her Target The Little Girl	白人ばかりの中学に転校した黒人少年と先生との出会い 恋いと思っていた父親のことを理解する少女	I Became Her Target (Roger Wilkins) The Little Girl (Katherine Mansfield)
		I Was Out Next Spring	12才のころバスケットチームから除名されたグリーン ある春で、5000年先に交いを証したエヌ博士	I Was Out (Bob Greene) 冬きたりなりば (豊新一)
		The Cat and Expert Plumber First in Love	人間の言葉が話せ、市長になる猫トーマス 互いの気持ちを伝え合うジョージとエミリー	The Pussycat and the Expert Plumber Who Was a Man Our Town (Thornton Wilder)
		* Mysterious Dolphins E.T.	ダウン症のポールとイルカとの交流 生き返ったE.T.はエリオットと別れ、宇宙船で故郷へと帰る	[参考] The Boy Who Wouldn't Talk (Cathy Anderson) E. T.
		Run, Melos!	身代わりになっている友人のために走り続けるメロス	走れメロス (太宰治)
		* The Secret Diary of Adrian Mole	黒猫講を切ることにになり、入院して手術をうけるエイドリアン	The Secret Diary of Adrian Mole Aged 13 3/4 (Sue Townsend)
		* He Has No Right to Call Me Carrots! * The Veil	赤い髪を染めて緑色になってしまい、髪を切るアン 脱獄から警察に捕まった、ロンドンで大学に通うフセイン	The Anne of Green Gables Storybook (Lucy Montgomery) The Veil (Valerie Smith)
		* I Am David * Avalanche in the Alps	収容所から脱走し、犬と逃げる少年デイヴィッド 雷崩に巻き込まれ、朝い次に救出されるカララ夫妻	I Am David (Anne Holm) Avalanche in the Alps (Christopher Matthews)
		* The Arrival of Paddington * I Want to See My Kids Grow Up	くまのパディントンを引き取るブラウン夫妻 ガンを患うランドンが語る、妻と子供	The Arrival of Paddington (Michael Bond) If I'm Gonna Die, Death's Gonna Have to Fight to Get Me
Sunshine	* What My Father Taught Me Somebody's Son	科学的なものの見方を父から教わったフラインマン 家を出し、放浪するデイヴィッド	The Making of a Scientist (Richard Feynman)_(Michael Landon) Somebody's Son (Richard Pindell)	
	The Dog Saw It * I'm Going to Be Seventeen	少女が、訓練していない犬を散歩させることで起こる事件 17才のグリーンが繰る1月1日から7日までの出来事	Crossingover (Catherine Storr) I'm Going to Be Seventeen (Bob Greene)	
	* The Summer of Cecily The Question	親と離れた子アザラジを保護し、海に帰したリンカーン 鳥子の刑を軽くしてもらいに、リンカーン会いに行くアイ威尔	The Summer of Cecily (Nan Lincoln) The Query (Woodly Allen)	
	* Jokes * Welcome Aboard	二階の首が気になる男/走って逃げたリューマウの男 客室乗務員の幽霊に薄かれて死の世界へと向かう男	from American Folk Tales and Songs (Richard Chase) 本日はようこそ (岡田高喜)	
	HELLO ENGLISH	—	—	—

出版社 三省堂	教科書名 CROWN	題	物語の要約	原作(出典)と原作者
	* Anne and Gilbert	沈みそなボートから、ギルバートに助けられたアン		Anne of Green Gables (Lucy Montgomery)
	Roald Dahl's Guide to Railway Safety	列車を利用する時に、するべきこととすべきでないこと		Roald Dahl's Guide To Railway Safety (Roald Dahl)
	* I Am David	収容所から脱走し、木と逃げる少年イヴイング		I Am David (Anne Holm)
	* Freedom From Fear	スー・チーが語るビルマの自然と国政		Freedom From Fear (Aung San Suu Kyi)
	* A Gift to Remember	子供の欲しいプレゼントと、親が贈るプレゼントのギャップ		A Gift to Remember (Ellen Goodman)
	The Happy Prince	像になって町を眺める王子と、王子の痛みを聞くつばめ		The Happy Prince (Oscar Wilde)
	* Scarlett Goes Back to Tara	レットとの仲も悪くなったスカーレットは夫を立て直す		Gone with the Wind (Margaret Mitchell) 「Mother
	* A New Page in My Life	津田がアメリカの母に送った2通の手紙		The Atlantic Letters: Ume Tsuda's Correspondence to Her American
	My Adorable Liars	子供たちの朝食にチョコレートケーキを出したコスビー		Good Morning, Opponents(Bill Cosby)_(Yoshiko Furuki et al., eds.)
	* My Own Story	血友病治療のためにエイズに感染した少年の手記		My Own Story (Ryan White and Anne Marie Cunningham)
	* Life on the Space Shuttle	無重力の生活について語るライド		To Space & Back (Sally Ride, Susan Okie)
	This Boy's Life	シスターから聞いた話を自分の機嫌として話す少年		Fortune (Tobias Wolff)
	A Perfect Day for Kangaroo	カンガルーの赤やんを島に行く夫婦(悪人)		カンガルー日和(村上春樹)
	* The Old Man and His Grandson	父につらく当たっていた夫婦が子供の言葉で改心する		[グリム童話]
	Shadows of War	強制収容所から生還したエヴァ・シュロツス		Eva's Story (Eva Schloss with Evelyn Julia Kent)
教育	* I Never Forget a Face	顔覚えのよい男と指名手配中の犯人		I Never Forget a Face (Cyril Hare)
	* The Outsiders	男子高校生のグループが起こす事件		The Outsiders (S. E. Hinton)
	The Girl on the Train	同じように目が見えない少女に会った、盲目の男		The Girl on the Train (Ruskin Bond)
	* Urashima Taro	乙姫からもらった箱を開けようとする浦島太郎		[書き下ろし](Ralph F. McCarthy)
	* A League of Their Own	女性のプロ野球チーム「ヒューー」の誕生と活躍		A League of Their Own (Lowell Ganz & Babaloo Mandel)
	* My Treasure	祖母からもらったガラス玉とガラス工芸家の作品		[教科書著者による書き下ろし]
	* Blownright Rabbit	犬が殺した、隣家のウサギを洗って小屋に隠したマカジー		The Blownright Rabbit (Ralph F. McCarthy)
	A Telegraph Message	鳥の死を知らせる電報をサントバルビんに運ぶホームー		The Human Comedy (William Saroyan)
	A Multi-cultural Person	外国の文化をどのように受け入れるかについて		A Multi-cultural Man (C. W. Nicol)
開拓	* Growing Up	スタンとデートに行きたいジェーンと、反対する両親		from Learning English —Compact Course 3
	* Humpty Dumpty	ハンプティ・ダンプティに会うアリス		Through the Looking-Glass, and What Alice Found There
	* The Third Wave	「第三の波」と呼ぶこれからの文明について		The Third Wave (Avin Toffler) _____(Lewis Carroll)
	* A Voice from Germany —Who was	元西ドイツ大統領ヴァイツェッカーが語るドイツの過去		from a Speech by President Richard von Weizsacker on 1980
NEW HARMONY	* Orpheus and Eurydice	森の世界から妻エウリディケを連れ戻すオルフェウス		[キリシヤ神話] Orpheus and Eurydice (James Reeves)
	* The Restaurant of Many Orders	森の中の山荘軒で、料理されそうになる男たち		注文の多い料理店(宮沢賢治)
ACCESS	* A Famous Director	朝日を構って、夕日のシーンの代わりには監督		A Famous Director (L. A. Hill)
	* Now or Never	高校の劇のオーディションで合格したスーとその友達		不明
	Two Were Left	氷上に取り残されたノーニと犬、その関係		Two Were Left (Hugh B. Cave)

出版社 大修館	教科書名	題	物語の要約	Four Words (Bob Greene)
啓林館	Genius	* Four Words	サエキのアメリカでの大学生活	A White Heron (Sarah Orne Jewett)
		* A White Heron	複製にする白サギを探す青年に、場所を教えないうしレピア	Yellow Handkerchiefs (Pete Hamill)
		* Yellow Handkerchiefs	ワインゴの妻が待っていたことを知らせる。黄色いハンカチ	It Likes That (Trevor Leggett)
		* It Likes That	【何故と言う少年に、「そいうものだから」と答えた母	The Mountain that Loved a Bird (Alice McLerran)
		CLIPPER	一羽の小鳥によつて緑豊かな山に変わった荒れた岩山	Our Town (Thornton Wilder)
		MILESTONE	互いの気持ちを伝え合うジョージとエミリー	Itadakimasu! (C. W. Nicol)
		OCEAN	食と生き物の命の関わりと、「いただきます」と言う言葉	Signposts (Christine Miskovits)
		POLESTAR	祖母の死後、ハンカチの語の意味を理解するマーンヤ	The Second Time Around (Peter Veney)
		LIGHTHOUSE	核戦争後、世界が一度滅んでいたことを知る気組員	The Date Catcher (Robert M. Flynn)
		UNICORN	星野が語る、事故のことと自分と、そして妹	Love-From an Abyss (藤野麗弘)
研究社	The New Age	* Love-From an Abyss	愚子の死を知らせる電報をサンドバルさんに運ぶホーマー	The Human Comedy (William Saroyan)
		* The Messenger	エリオットと友情を深めたE.T.の、宇宙船での帰郷	E. T.
		* Wild Mushrooms	きのこ狩りに行った夫と、内情で食用きのこを用意した妻	Wild Mushrooms (Jake Allsop)
		* Captain of His Ship	自分の仕事を淡々と、そして誇りをもつて行方バスの運転手	Captain of His Ship (Bob Greene)
		* The Great Stone Face	岩にある顔をもつ賢い男を待ち続けるアーネスト	The Great Stone Face (Nathaniel Hawthorne)
		* Archimedes and the Golden Crown	アルキメデスがもの質量を水で測ったエピソード	Archimedes and the Golden Crown (Linda W. Giraud)
		* Ladybirds	5つホジアントウを発見した老人と、それをもらったレベッカ	Ladybirds (Jake Allsop)
		* Lavender	戦時中、命令によつて絞られた上野動物園の象	Lavender (Robert D. San Souce)
		* The Poor Elephants	何十年も前に死んでいた、パーティーへの通で会った少女	The Last Leaf (O. Henry)
		文芸堂	UNICORN	* Behind Closed Windows
* Bless My Homeland Forever!	ナチを逐うて国を脱出するトラップ一家			The Story of the Trapp Family Singers (Maria Augusta Trapp)
* Ulysses	父の戦死、兄の入院とユリシーズが母から聞く、生と死			The Human Comedy (William Saroyan)
* I Believe	アインシュタインが語る人生、民主主義、戦争			I Believe (Albert Einstein)
* I Am a Dancer	人間の身体というものとダンスについて			Blood Memory (Martha Graham)
* Blackberries	髪を切り、クロイチゴを摘む男の心の成長			Blackberries (Leslie Norris)
* The Childhood of Charles Chaplin	チャップリンの子供時代と母の記憶			My Autobiography (Charles Chaplin)
* Under the Atomic Cloud	長崎の原爆と、犠牲になつた家族			Child of Nagasaki (Takash Nagai)
* George and Emily	互いの気持ちを伝え合うジョージとエミリー			Our Town (Thornton Wilder)
APPICOT	The Love Letter			* Marian Anderson
		* The Love Letter	少年が、少女の父親に見破られないように書いたラブレター	from The Love Letter
		* Five Ripe Pears	少年の頃にナンを取つた思い出	Five Ripe Pears (William Saroyan)

出版社	教科書名	題	物語の要約	原作(出典)と原作者
池田	Daily	* Don't Worry	リュックをバラシユートと間違えて飛び降りた学者	from Cycle Two Book 1
		* What Made Her Angry?	恋人に年輪以上の数の花を贈ってしまった男	What Made Her Angry? (H. Ito & B. Arvin)
		* Bella's Wit	金貨のクイズのトリックを見抜き、結婚せずに済んだペラ	Make Your Point (L. G. Alexander & M. C. Vincent)
		* Hyacinthus	円盤に当たったヒヤキンthusを花に置き、命を与えたアポロ	[ギリシヤ神話] Hyacinthus (L. S. Hyde)
		* The Disaster	危険を予知するネズミを飼っている男	災難(更新一)
		* Weightlessness	無重力のスペースシャトル内での生活	To Space & Back (Sally Ride with Susan Okie)
		* Writing Home	学校の授業で週に一度母に宛てて書いた手紙	Boy (Roald Dahl)
		* How Baseball Began in Brooklyn	入植者と先住民の子供たちが作った野球の原形	Silver Web (L. Grand)
		Money Makes Problems	チェンからもらった銀を返し、欲のない生活を送るリ	[民話] Money Makes Troubles (A. Ediger, R. Alexander & K. Srutwa)
		* Ghost on the Track	おぼけ(鎌)のお陰で事故から免れたロンドンへ向かう列車	Ghost on the Track (M. T. Pringle)
		* The Making of a Scientist	父から教わった、数のこと、恐竜のこと、鳥のこと	What Do You Care What Other People Think? (Richard Feynman)
		* The Story of My Life	6階の様に立つ青年を救出した警官のグレイ	On the Ledge (T. Clayton)
		* A Ray of Sunshine	偶然母の再婚相手に、母の再婚話をしたままのシャロン	The Story of My Life (Helen Keller)
		The Ghost and the Dreaming Lady	妻が幽霊となって消えるという不思議な体験をする夫	Open-Ended Plays (M. Valder)
A Miracle on the Galata Bridge	アヤソフィア博物館にある、絵の中の天使に会ったレイラ	[出版元: 一橋出版]		
* Harpist of the Gulf	ハーブを弾く女の幽霊と、この女を殺したホーズの死	from The Penguin Book of Unique Short Stories		
The Lost Village	10年に1日だけ現れる、消えた村で、少女に会う男	from Terrible Legends in America		
* Without Valleys You Can't Have Mountains	運のよしあしではなく、自分でやりとげる夢	The Lost Village (Jan Garew)		
Love Lives Forever	兄弟の死を電報で知る、電報局に勤めるホーマー	Without Valleys You Can't Have Mountains (C. W. Nicol)		
* May I Have Your Autograph?	ロック歌手のファン、ウエジンが歌手にサインをもらうまで	The Human Comedy (William Saroyan)		
Mrs. Simkin's Washing Machine	夫が作った足こぎの洗濯機で、空を飛びシムキン	May I Have Your Autograph? (Marforie Sharma)		
* The Girl Elena	結婚がない、金持ちの息子フレッドと貧しいエレナ	Mrs. Simkin's Washing Machine (Linda Allen)		
* Gold in Utopia	宝石や金には価値のない国にやってくる、着飾った大使	[編集委員会]の共同執筆		
* I Love You, Chris	恋人のいるクリスに詩を朗読し、愛を告白するノックス	Dead Poets Society (N. H. Kleinbaum)		
The Legend of the Bananas	チャと結婚した精霊サグインと、心臓から芽吹くバナナ	[フリビンの説話] from Filipino Myths & Legends		
* Mrs. Simkin and the Magic Wheel-	ポードに変わった、シムキンの買ったきれいな一輪車	Mrs. Simkin and the Magic Wheelbarrow (Linda Allen)		
* The Boy at the Window	重病で外に出られないアマルとヨージーの男	The Post Office (Rabindranath Tagore)		

出版社 旺文社	教科書名	題	物語の要約	原作(出典)と原作者
Step New Sunrise Royal	* In Clover	9才で四つ葉のクローバーを見つけ、44才で死んだジョン		不明
	* The World Needs Me	自分だけ助かれない科学者、政治家、運動選手、芸術家		不明
	* Long Walk to Forever	結婚が決まったキヤサリンに愛を告白するニュート		Welcome to the Monkey House (Kurt Vonnegut)
	* We'll Remember, Tiger! Charles	猫のタイガーの一生を通して成長するブライアンとジェン		We'll Remember, Tiger! (Monte Bourjaily) Charles (Shirley Jackson)
PROGRESSIVE	* A Spray of Heather Johnnie Stays Here!	自分で訪れたバルセルONAの町に出る草椅子のアンドリュー		A Spray of Heather (Jake Allsop) Johnnie Stays Here! (A. J. Cronin)
	* The Japanese Today	ライシャワーが見た今の日本		The Japanese Today (Edwin O. Reischauer)
	* The Miraculous Photograph Record	13才の時買った番書機とレコードと、それを楽しむ母		The Miraculous Photograph Record (William Saroyan)
	* The Value of Science	用い方によって、世の中を長くも悪くも悪くもする科学というもの		The Value of Science (Richard Feynman)
QUEST	* My Search For Roots	祖先が住んでいたアフリカの村を探し当てたヘイロー		My Search For Roots (Alex Haley)
	* The Red Dog	軍隊に入るために犬を手放した男と、犬のその後		The Red Dog (Howard Maier)
	* The Fourteenth Guest	13を嫌う客のために用意したぬいぐるみが欲しいハレン		不明
	* A Concert for Just One Man The Date Catcher	男の幽霊によって命拾いをしたオーケストラの面々 髪型めによってでてでなく、自分で相手をみつけたジェニー		from English Fantasia—Red Book The Date Catcher (Robert M. Flynn)
MAINSTREAM	* A Girl against the Jungle	飛行機事故に遭い、ジャングルを一人さまよったスーザン		Girl against the Jungle (Monica Vincent)
	* My New Family	養ネズミと、その子ネズミたちをスケッチする女性		Wild Mouse (Irene Brady)
	* My First Love	彼女と会うために学校を抜け出すこともあった初恋の話		I Love Soccer, and You (Jordi Cayvelles i Torrents)
	* The Capricious Robot * A Farewell to Arms	壊れてしまう有能なロボットと、その設計 敵軍から脱走し、スイスに逃げるフレデリックとキヤサリン		きまぐれロボット (墨新一) A Farewell to Arms (Ernest Hemingway)
NEW STREAM	* The Pillow * The Old Man and the Sea	就寝中にしが効き目がない、英語を話せようになる枕 マカジキをひとり追い、疲れ果てる漁夫とそれを見守る少年		新発明のまくら (墨新一) The Old Man and the Sea (Ernest Hemingway)
	* Plan of Attack	手紙を附けてしまっパートの母に対して取られた作戦		The Day I Met My Mother (F. L. Mahaney)
第一 CREATIVE	* The Day I Met My Mother	偶然聞くことになった、出産で死んだ母の話		Plan of Attack (Saki)
	* The Joker	ジョークの達人ヘンリーが運事で隣した裏手のジョーク		The Day I Met My Mother (F. L. Mahaney) The Joker (Jake Allsop)
	* A Sandpiper to Bring You Joy	白血病で亡くなっていて、浜辺で金つた無邪気な少女		from Reader's Digest
	* Growing Up * Three Day to See	自分へのクリスマスプレゼントをこっそり見てしまった少年 3日間だけ目が覚めるならば、何を言いたいを語るケラー		Growing Up (Russell Baker) Three Day to See (Helen Keller)
ENGLISH STREET	* Examination Day	政府のテストを受け、知能が高すぎて処分されるリチャード		Examination Day (Isaac Asimov)
	* Daddy on Friday Night	パーティーに出かける理由を父に色々と聞かれるアン		Daddy on Friday Night (M. E. Hines)
	* Tug of Life	ワニに襲われる愚子を助けた勇敢な母		Tug of Life (T. Gunning)
	* Nasreddin: A Comic Hero A Wonderful Present	とんち上手な伝説の人、ナスレディンのエピソード 少女に、破格の値段でプレゼント用のネックレスを売るピーター		[中東地域の民話] from Middle East and North Africa from Readings—English as a Second Language Book 1

出版社	教科書名	題	物語の要約	原作(出典と原作者)		
秀出	Senior Total	* An Early Visit to Japan	ラグナグ経由で来日し、長崎へ行ったガリバー	Gulliver's Travels (Jonathan Swift)		
		* The Return to Tara	父の待つ、タラへと戻ったスカーレットの一行	Gone with the Wind (Margaret Mitchell)		
		* The Song of Hiawatha	対立するダコタ部族のミンハハに恋をしたアイワアサ	The Song of Hiawatha (Henry Longfellow)		
		The Old Man and the Sea	マカジキを漁り漁夫とそれを見守る少年	The Old Man and the Sea (Ernest Hemingway)		
		New ENCOUNTER	* A Lamp in A Window	死んだ猫を冷蔵庫に保管していた、年配の女性ケリー	Music for Chameleons (Truman Capote)	
			The Luncheon	女の注文する高価な昼食に、月の生活費をつぎ込んだ男	The Luncheon (Somerset Maugham)	
		三友	NEW WORLD	* Heaven and Hell	天国と地獄についての、中国のたとえ話	Heaven and Hell (Isabella C. Chang)
				* A Rose Called "Peace"	品種改良したバラをドイツの貴族から買った父子	For Love of a Rose (Antonia Ridge)
				* Akebi Season	学校に行かず、先輩たちと楽しんでアケビ取り	ボクらの学校は山と川、オーニー!やまびこ⑥(矢口高雄)
				* Tom Sawyer Falls in Love	好きな女の子の胸に恋り、「好き」と書いて見せたトム	The Adventures of Tom Sawyer (Mark Twain)
One Hot Summer Day	結婚相手の家にいた、友人の方を好きになったボブ			The Visitor (Erskine Caldwell)		
NEW COSMOS	New Atlas	The ABC's of Courage	55年間、読み書きができないことを願っていた男	The ABC's of Courage (Bob Greene)		
		* Mr. Fox and Mr. Rabbit	キツネから上手に逃げ切るウサギ	[米、黒人の民話] from Complete Tales of Uncle Remus		
		* Momo's Talent	「聞くという才能のある、劇場の演劇に住むモモ	Momo (Michael Ende)		
		The Night Hawk Star	タカに嫌われ、空に飛び立ち星になるウダカ	よだかの星(宮沢賢治)		
		The Way of Nature	リトルトリーが祖父から教わる、生き物と自然との関係	The Education of Little Tree (Forest Carter)		
新原	SPECTRUM	Waiting for Prince Charming	ブランド・デートをした少女エイミー	from Mini-World		
		East of Eden	父に受け入れてもらえないキャルの苦悩と父との確執	East of Eden (John Ernst Steinbeck)		
		* Daddy-Long-Legs	「あしながおじさん」の正体を知ったジュディが書いた手紙	Daddy-Long-Legs (Jean Webster)		
		* Alice and Cheshire Cat	物を見るということの本当の意味を語るケアー	Three Day to See (Helen Keller)		
		The Great Whale's Mistake	アリスにアドバイスするチンヤ猫	Alice and the Cheshire Cat (Lewis Carroll)		
表の説明	English PAL	* The Use of Lateral Thinking	人間について親に尋ねる、初めて人間を見たクジラ	The Great Whale's Mistake (Russell Baker)		
		The Miracle of Love	金貨のクイズのトリックを見抜き、結婚せずに済んだ女	The Use of Lateral Thinking (Edward De Bono)		
		His First Flight	知的障害をもつ少年レスリーを看護し、支えたレムク かもめが初めて空を飛んだ日	The Miracle of May Lemke's Love from Reader's Digest His First Flight (Liam O'Flaherty)		
		Roman Holiday	休日をブラットレイと過ごし、記者会見で再会するアン王女	Roman Holiday		

表の説明

- \* 「題」のうち、教科書の「課(い)わゆる(Lesson)」には \* 印をつけてある
- \* 「原作(出典)と原作者」では、原作(原作者)の順で記入してある
- \* 「原作(出典)と原作者」で from が預けられているのは、「題」の作品が取られている出版物を表す